



古河から世界へグローバルマザー工場建設中
日野自動車株式会社

日野自動車(株)は、モジュール車（ユニットを標準化して組み合わせた車）のグローバルマザー工場を茨城県古河市に建設中です。現在は、工場の建屋が完成し工場内の生産設備の設置に入っており、稼働に向けた最終段階へと進んでいるところです。

日野工場の良い点を取り入れながら古河工場の文化を創り、また規律・オーナーシップ・チームワークをキーワードに工場環境改善に努め、日野自動車の技術を結集した最先端のトラック工場に造りあげていきたいと思ひます。

工場の建設地である古河市は、関東地方のほぼ中央に位置し、“生きている自然の博物館” 渡良瀬遊水地（国内最大）も近く、水と緑の豊かな土地です。

また、室町時代には古河公方の本拠地として、江戸時代には古河藩の城下町、日光街道古河宿の宿場町として盛えたため、史跡や伝統行事など風情ある土地柄でもあります。

“おかえり”の愛称で知られる「古河提灯竿もみまつり」は、江戸時代古河藩領での神事が起源とされており、20メートル近い竹竿につけた提灯を激しく揉みあう様は勇壮です。

既に古河工場で働き始めた社員は、地元のソフトボール大会への参加や転居先での自治会役員就任など、地域で生活を根付かせつつあります。また、自然あふれる環境の中で子育てを楽しんだり近隣のゴルフコースで腕を磨いたり、古河ライフを満喫しています。

そして、社員だけでなく古河工場も地域と共に歩んでいく工場となれるよう、安全や環境、ボランティアなどの地域活動にも積極的に参加し、「日野自動車が古河に来て良かった」と言っただけのような存在になりたいと思ひます。



<古河工場>
完成した工場の建屋
(2016年2月撮影)



<交通安全教室>
近隣の小学生を招き
実車を使って体験教室を実施